



いよいよ聴ける!

ツィメルマンのベートーヴェン! 平野 昭 (音楽学)

最も来日が多く、どの演奏会も満席になるというのがツィメルマンだろう。18歳でショパン・コンクールに最年少優勝し、一夜にして世界中から注目を浴びるようになった。そのときから日本の音楽ファンが首を長くして3年待った初来日は虎ノ門ホールであった。映画に出てくる貴公子さながらの21歳のツィメルマン(当時は髭なし)のステージに花束を抱えた若い女性(当時はコンサート・ギャルと呼んでいた?)が殺到したのを覚えている。それ以来、可能な限りの来日演奏は聴いてきたが、ショパン音楽の優美さはもちろんポーランドの作曲家シマノフスキやバツイヴィチ作品などでの熟演と驚異的なヴィルトゥオシテティなどもつねに聴き手に新鮮な感動を与えてきた。また、定評の高いブラームスやシューベルトやドビュッシーのプログラムなどでは、聴き知っているはずの名曲から未知の美しさや主題旋律の新鮮な表情を引き出し、音楽を聴くことの喜びをもたらしてくれる。ここ数年ほとんど毎年のように来日し、ひと月以上にわたって全国で演奏会を開くようになったのは大変に嬉しいのだが、私にはずっと以前から持ち続けていた大きな期待と願望があった。それがようやく満たされる日が来る。ベートーヴェンのソナタ演奏だ。

2009年5月から6月にかけての演奏会で「ハ短調ソナタ」作品111を聴き、その完璧なテクニックとテンポの速さには感動した。もはや大時がかかった重厚で大袈裟で感情過多な表現によるベートーヴェン演奏の時代は終焉したのだ、とも思った。しかし、そのときのツィメルマンの演奏には最後のソナタとして作曲者が込めたであろうメッセージ性は感じられなかった。これまでリサイタルではあまりベートーヴェン作品を取り上げてこなかったが、1989年9月にバーンスタイン指揮のウィーン・フィルハーモニーとベートーヴェンのピアノ協奏曲第3～5番の演奏、バーンスタイン急逝後の1991年12月に自ら弾き振りでウィーン・フィルと協演した第1番と第2番の演奏録音が今でも名演盤として愛聴されているのは周知のとおりだ。第3～5番ではバーンスタインとのコラボレーションであるが、第1、2番は巨匠との協演経験を踏まえた上で30代半ばのツィメルマンがベートーヴェン音楽と真剣に向かい合っ、精緻な音楽作りをしている。この頃からツィメルマンの心にはいつかはベートーヴェンのソナタ全曲演奏という意識が芽生えていたに相違ない。

奇しくもツィメルマンは今年ベートーヴェンの生涯年齢(56歳)にある。ピアノ・ソナタ第30～32番、作品番号109～111は創作生涯5年を残した1820～22年初頭にかけて作曲されたトリプティック(三連作)による、ピアノ・ソナタに対するベートーヴェン最後の言葉でもある。「ハ短調」と「ハ長調」による2楽章構成の作品111を中心に考えれば、長3度上の「ホ長調」ソナタ作品109と長3度下の「変イ長調」作品110との響きの連鎖にツィメルマンがどのような意味づけをするのか、ほんとうに楽しみである。

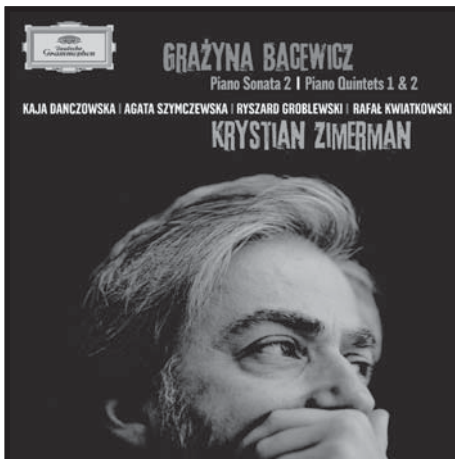
### クリスチャン・ツィメルマン (ピアノ) Krystian Zimerman, Piano

ポーランドのサブジェに生まれる。1975年にはショパン国際ピアノコンクールに史上最年少の18歳で優勝して、一躍世界の音楽界に知られる存在となった。

室内楽では、ギドン・クレーメル、チョン・キョンファ、ユーディ・メヌーインらと共演。またバーンスタイン、カラヤン、ブーレーズ、ジュリーニ、マゼール、小澤征爾、ムーティ、ラトルら多くの卓越した指揮者とも共演している。

CDはドイツ・グラモフォンの専属契約の下に数多くの権威ある賞を受賞している。

近年日本では、リサイタルツアー(09年、10年、12年)のほか、ギドン・クレーメルとのデュオコンサート(07年)、チョン・ミョンファン指揮/東京フィルハーモニー(08年)と、ツィメルマンに捧げられたピアノ協奏曲(ルトスワフスキ作曲)を、パーヴォ・ヤルヴィ指揮/シンシナティ交響楽団(09年)とガーシュイン「ラプソディ・イン・ブルー」を共演。2010年にはハーゲン弦楽四重奏団と日本ツアーを行った。



## クリスティアン・ツィマーマン Krystian Zimerman

### 《バツェヴィチへのオマージュ》

バツェヴィチ: ピアノ・ソナタ第2番、ピアノ五重奏曲第1番・第2番

クリスティアン・ツィマーマン(ピアノ)  
カヤ・ダンチョフスカ(第1ヴァイオリン)、アガタ・シムチェフスカ(第2ヴァイオリン)  
リチャード・クロプレフスキ(ヴィオラ)、ラファウ・クヴィアトコフスキ(チェロ)  
録音:2009年2月 カトウィツェ CD●UCCG-1533 定価¥3,000(税込)

ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第5番《皇帝》

クリスティアン・ツィマーマン(ピアノ)  
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 指揮:レナード・バーンスタイン  
録音:1989年9月 ウィーン(ライヴ) CD●UCCG-4350 定価¥2,300(税込)

ユニバーサル ミュージックのホームページで商品が購入できるようになりました! (一部商品を除く)

発売・販売元:  
ユニバーサル ミュージック

http://www.universal-music.co.jp/classics/

